新リク&背リクバギー（WRB）

取扱説明書

新リク＆背リクバギーを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

新リク＆背リクバギーの特長

- ●新方式リクライニング
- ●背オフセットリクライニング
- ●調節スリングシートによる背座張り調節
- ●体幹サポートインナーパッド及び座面前方ウェッジによるサポート調節
- ●座面奥行き調節
- ●フットサポート高さ調節
- ●レッグサポートエレベーティング
- ●フットサポート角度調節
- ●通気性に優れたシート素材
- ●コンパクトに折たたみ可能



目　次

- ● 安全にお使いいただくために……P1・2
- ● 各部の名称……P3
- ● 製品構成……P3
- ● オプション……P3
- ● 使用前点検……P3
- ● 各部の取り扱い……P4・5
- ● 調節スリングシートついて……P6
- ● インナーパッドについて……P6
- ● 開き防止ベルトの取り扱いについて……P7
- ● 開き防止ベルトの使用方法……P8
- ● 自動車への積み降ろしについての注意……P8
- ● 折りたたみ方・開き方……P9・10
- ● 必ずお読みください……P11
- ● お手入れ・メンテナンス……P11
- ● ティッピング操作の方法……P12
- ● アームサポート金具の取り扱い……P13
- ● 仕様……P14
- ● 可変角度……P14

安全にお使いいただくために

本書記載事項以外の使用はしないでください。

⃠ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

⃠ 本人を乗せたまま放置しないでください。

⃠ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。

⃠ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。

⃠ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。

⃠ エスカレーターでの使用はしないでください。（一般的にも禁止されています。）

⃠ 子供に操作させないでください。

⃠ 坂道での駐車はしないでください。
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）

⃠ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。

⃠ 本人を座らせたままで、抱えて移動しないでください。持つ位置によって各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、そのような状態では安全に移動することが困難かつ危険です。

❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方者や取り扱い業者にご相談ください。）

❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。

⃠ 座面後部を水平より起した状態で使用しないでください。構造上、急に折りたたむおそれがあり危険です。

⃠ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。

⃠ 自動車の中では使用しないでください。

❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。

⃠ 改造や分解はしないでください。

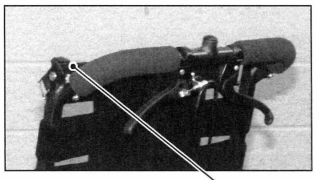
●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⃠本人以外での使用はしないでください。
    （個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - ⃠処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作は、ティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、ケガのおそれがあります。
  《くわしくは別紙ティッピング（前輪上げ）操作説明書をご覧ください。》
- ❗ エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際ははさまれないよう注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように、開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。（開き防止ベルトと持ち運びについては、7〜8ページを参照してください。）
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⃠ 折たたみおよび開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⃠ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⃠ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⃠ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。（後方に倒れることがあります。）
- ⃠ 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。そのような使い方はおこなわないでください。
- ⃠ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⃠ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⃠ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⃠ シートを外した状態での使用はしないでください。
- ⃠ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ⃠ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⃠ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強いカや衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⃠ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⃠ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称

※M, Lサイズ





製品構成

		数　量
●基本フレーム		1
●調節スリングシート（背・座）		1
体幹サポートインナーパッド	体　幹	左右1対
	骨　盤	左右1対
座面前方ウェッジ		1
レッグサポート		1
●開き防止ベルト		1

		数　量
●シートユニット	背シート	1
	座シート	1
	ヘッドサポート	1
	スカートガード	左右1対
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1

オプション

●日除け
●アームサポート金具

使用前点検

◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。

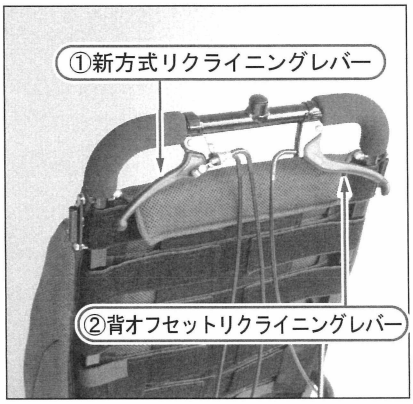
◎リクライニング機構がスムーズに作動することを確認してください。

◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

各部の取り扱い

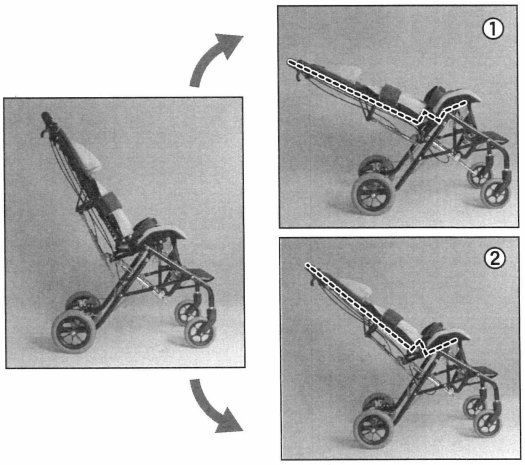
●リクライニングレバー

押し手グリップ中央にあるレバーを握るとロックが解除され自由な位置でリクライニング角度を設定することができます。レバーをはなすとその角度で固定されます。



① 新方式リクライニング(新リク)
背もたれと座面後部が、一体となってリクライニングします。

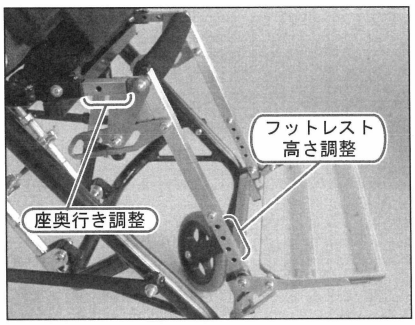
② 背オフセットリクライニング(背リク)
背もたれのみがリクライニングします。



- リクライニングレバーのあそびが多くなってきたらワイヤーの張り調整をおこなってください。
- リクライニング角度を変える時は必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。
- お子様には絶対操作させないでください。

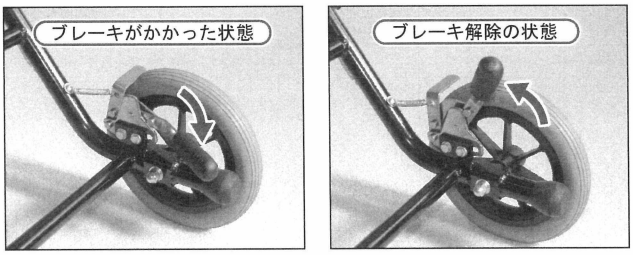
●座奥行きとフットレスト高さの調整

ネジを差し換えることで、使用される方の大腿長と下腿長の長さにあわせて調節ができます。

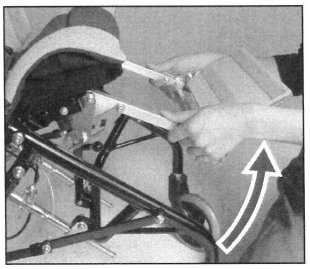


●ブレーキ

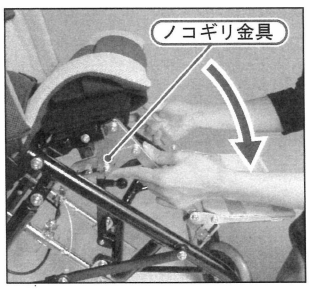
ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。
そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



●レッグサポートのエレベーティング

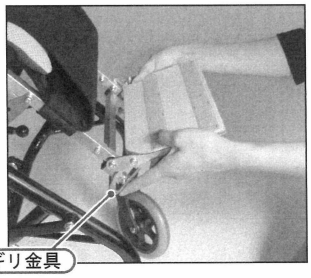


上げる場合
レッグサポートパイプを両手で持ち上げます。
上げきりまで4段階の角度設定ができます。

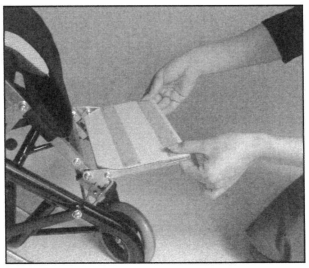


下ろす場合
レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のレッグサポートエレベーティング金具(ノコギリ金具)を指で押し上げながら下ろしてください。

●フットサポートの角度調節



開く場合
フットサポートをかるく持ち上げ、左右のフットサポート角度可変金具(ノコギリ金具)を指で持ち上げながら足低板を開きます。

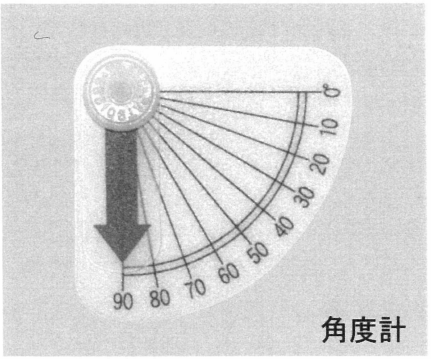


戻す場合
フットサポートの先端を持ち上げながら適切な角度に設定してください。
(4段階の設定ができます。)

- 指をはさまないよう、注意して操作してください。

各部の取り扱い

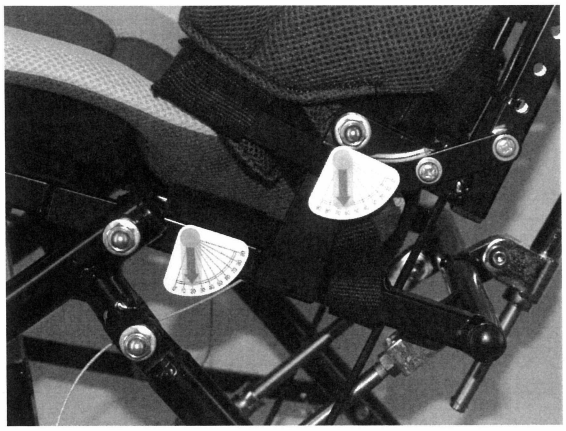
●角度計の使用方法について



角度計

この商品には角度計を取り付けております。
使用される方の身体・使用状況に合わせてリクライニング角やティルト角などの起こし・倒し角を適切な角度に設定するときの目安にしてください。

＊角度設定については、使用される方一人一人、身体状況や使用場面により異なるかと思われます。
医療機関のスタッフ（お医者様、訓練士など）にご相談のうえ、ご本人にふさわしい背もたれの角度、全体の角度を設定したら、目安となるところに印をつけてください。

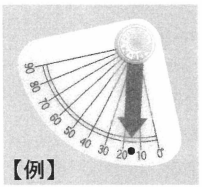


■背パイプ、座パイプの※左側面に貼り付けてあります。
機種、サイズによっては、右側に貼り付けている場合もあります。

■背もたれ側は背面と座面との角度（開き加減）、または起こし・倒し角度で、座面側は全体の起こし・倒し角度となります。

角度計が外れてしまったときには・・・・

背もたれ側は、背パイプと角度計「90°」の線が平行になるように貼ってください。
座面側は座パイプと角度計の「90°」の線が平行になるように貼ってください。



マジックなどで印をつけてください

●押し手高さ調整（オプション）

ワンタッチでロックと解除の操作がおこなえる「クイックレバー方式」により、押し手の高さと方向を無段階で調節、設定ができます。

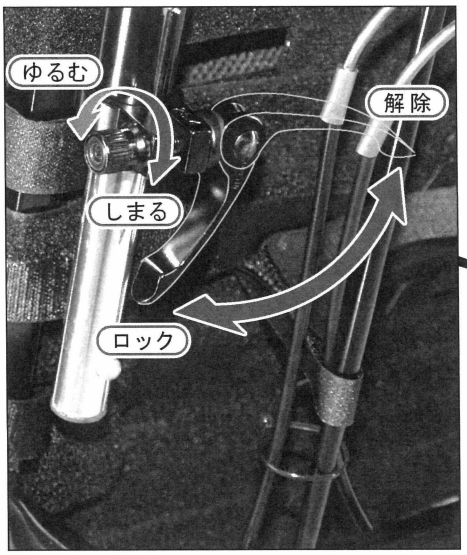
クイックレバー

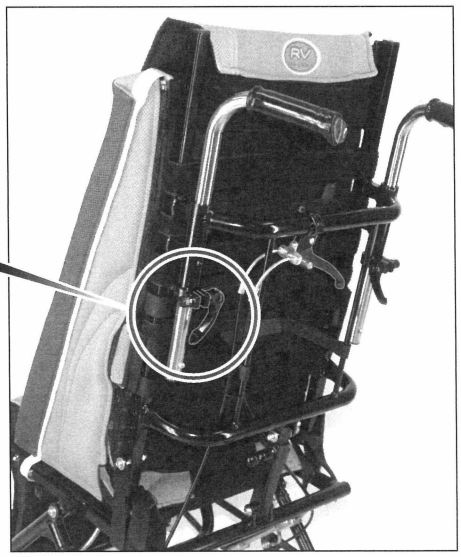
・レバーを水平に開くと解除、90度に曲げ込むとロックします。
※使用前にはロックが十分に効いていることを確認してください。

・押し手の固定が弱く感じられたときは、クイックレバーの調整が必要です。

①調整するときはまずレバーを開き解除して、反対側のツマミを1/6回転ほど締めこむ。

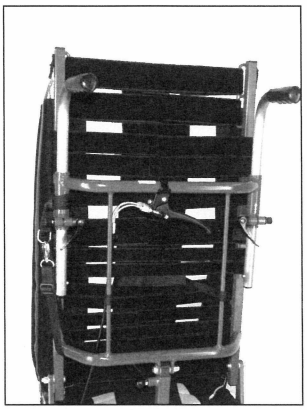
②次にレバーをロックして、押し手の固定力を確認してください。固定力が弱いようであれば固定力が得られるまで、①②の手順を繰り返してください。
レバーだけをぐるぐると締めこんでも、押し手を固定することはできません。

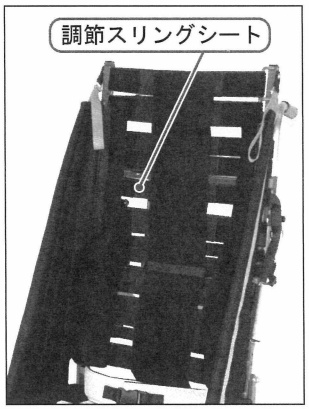




・押し手グリップの固定にはクイックレバーを使用しております。クイックレバーは、開閉操作のワンタッチで強力な固定力を得られますが、一方で締め過ぎによって不具合が生じる場合もあります。正しい調整をおこなってください。
・レバーは下側に向けてロックしてください。後方に向けてロックすると突き出たようになり危険です。

調節スリングシートについて



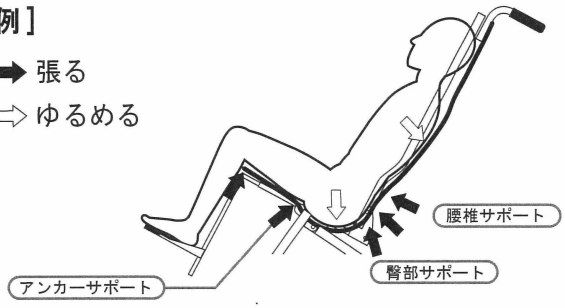


帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

[調整例]

➡ 張る

⇨ ゆるめる



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部) ②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部) ③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。
座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

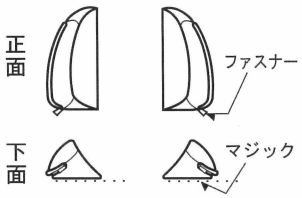
体幹サポートインナーパッドの取り扱いについて

調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部を背もたれに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上から背シートを取りつけて使用します。

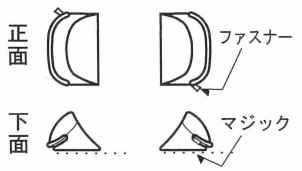
体幹パッド(2個)

- 左、右別
- ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- マジック面がスリングシート側です。



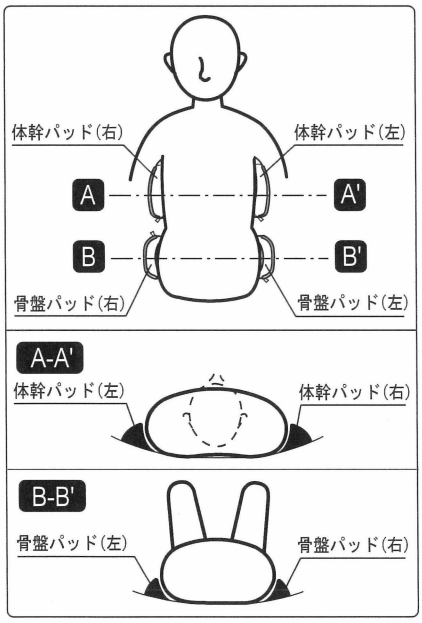
骨盤パッド(2個)

- 左、右共通
- ファスナーがついている方が外側です。
- マジック面がスリングシート側です。



① 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

② 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮してパッドを調節スリングシートに取りつけます。



[体幹パッド]

○側弯などの影響で姿勢の崩れに左右差がある場合には、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。

○ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

[骨盤パッド]

○骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

③ 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

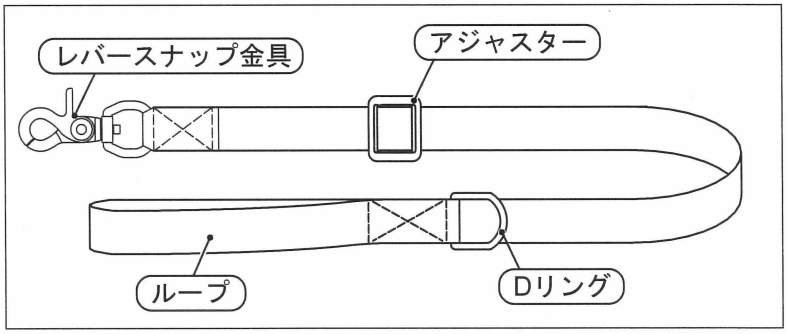
○パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはWRBを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。
取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

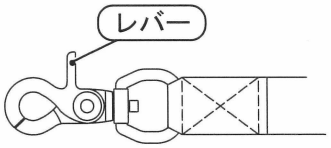
●開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。

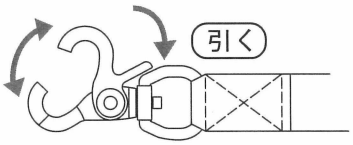


●レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。
開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



- 開閉部は親指でレバーを引くと開きます。

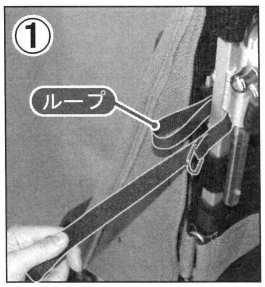


- ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

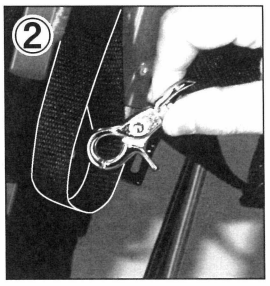
⚠
- レバースナップ金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

●バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています。)
取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後脚フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



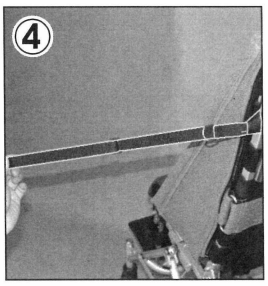
Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



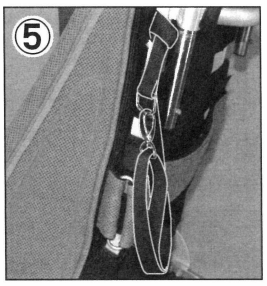
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。



ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



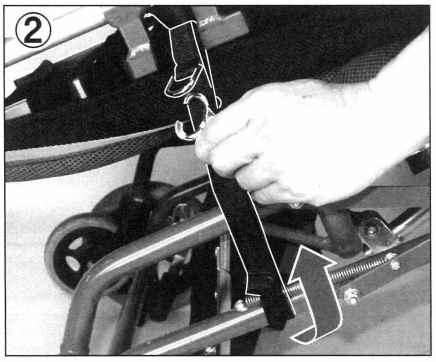
通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

⚠
- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを確認してください。

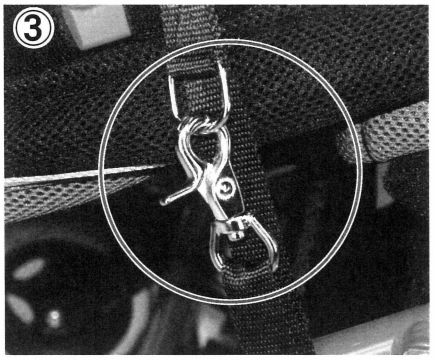
開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後脚フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



後脚フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。

- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態（ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど）では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなどで抱え上げるときは、下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Ⓐのように、後輪のついている後脚フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。

図ⒷⒸのように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前脚フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。

Ⓐ



○後脚フレームを持ち、全体をかかえてください。

Ⓑ



× 背パイプのみを持っている。

Ⓒ

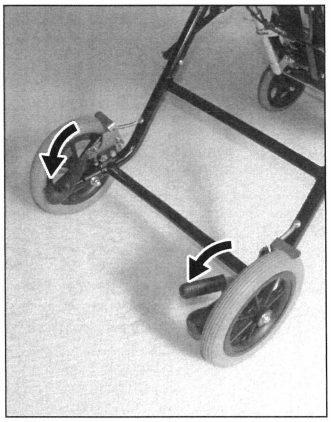


× 前脚フレームのみを持っている。

・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

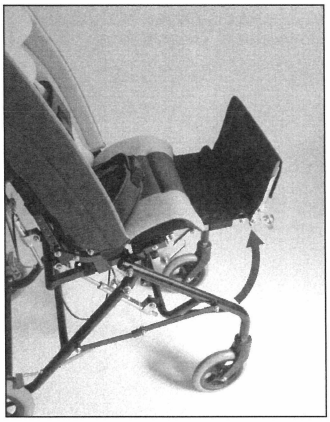
折りたたみ方

①



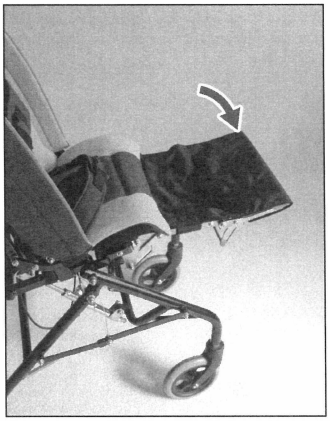
フットブレーキ（左・右）をかけてください。

②



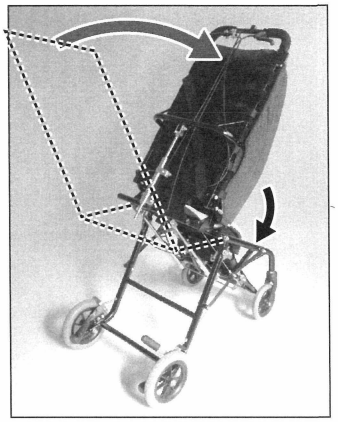
レッグサポートを最大まで上げてください。

③



フットサポートを開いてください。

④



新リクレバーを握り、新方式リクライニングを止まるところまで起こしてください。

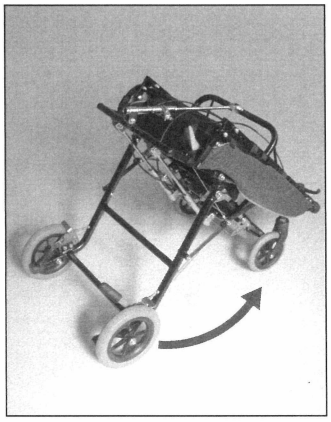
開き方

①



開き防止ベルトを外してください。

②



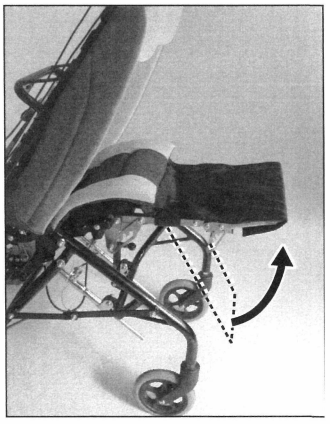
前脚と後脚を開いてください。

③



背リクレバーを握り、背もたれを開いてください。

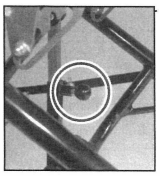
④



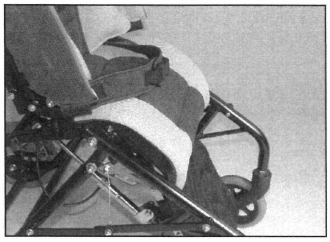
座下ロックが「カチッ」というところまでレッグサポートパイプを持ち上げて、座下ロックが確実に固定されているかを確認してください。

④と⑤の手順を逆におこなうと、新リク用メカロックシャフトがフットサポート金具に引っかかり前座が持ち上がらないなど不具合が生じる場合があります。必ず手順にそって、折りたたみをおこなってください。

5

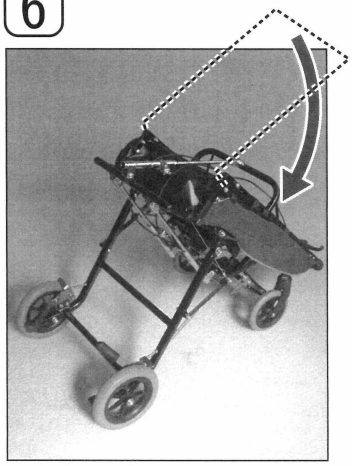


座下ロック
ボールピンを手前に引くと解除されます。



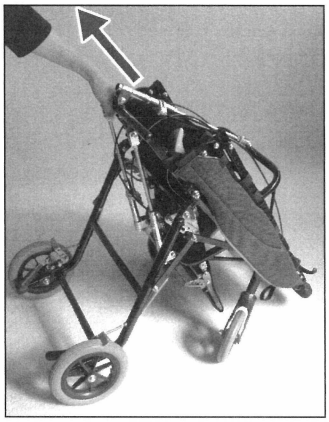
前座をささえながら座下ロックを解除し、レッグサポートパイプを下げてください。

6



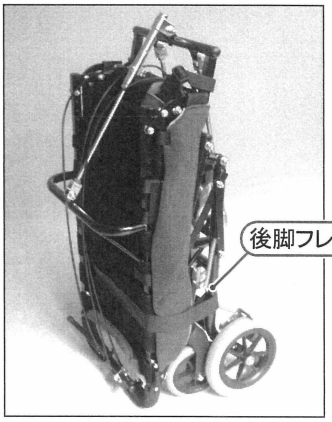
背リクレバーを握り、背もたれをたたんでください。

7



座面後部の丸パイプを持って、矢印の方向に引き上げてください。

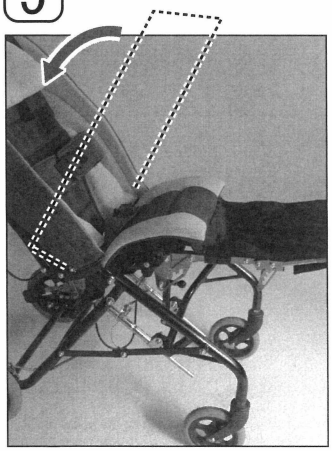
8



折りたたんだら、必ず開き防止ベルトでとめてください。

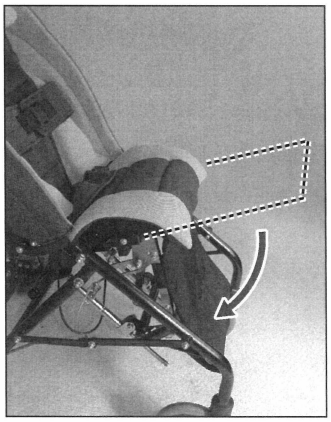
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具のロックが、かかっていることを確認してください。
- 開き防止ベルトのとめ方が不十分なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- 開き防止ベルトの取り扱い、積み込みの注意の詳しい内容については、7〜8ページを参照してください。

5



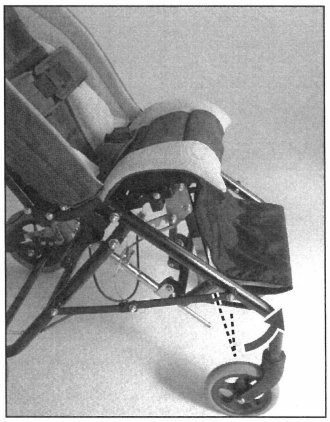
新リクレバーを握り、新方式リクライニングを倒してください。

6



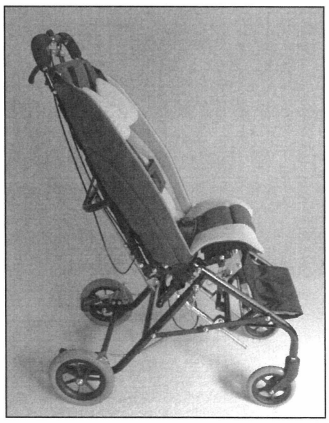
レッグサポートを使用する角度まで戻してください。

7



フットサポートを戻してください。

8

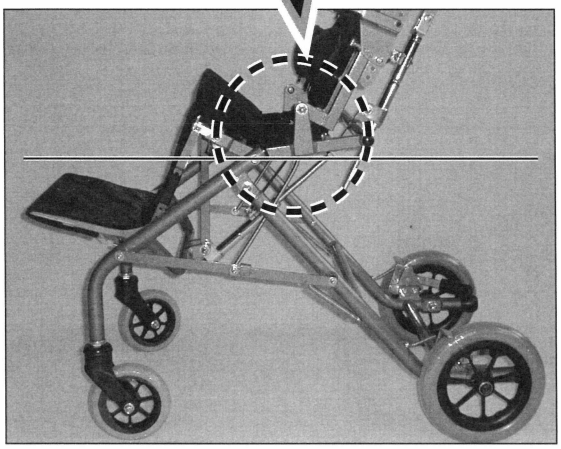


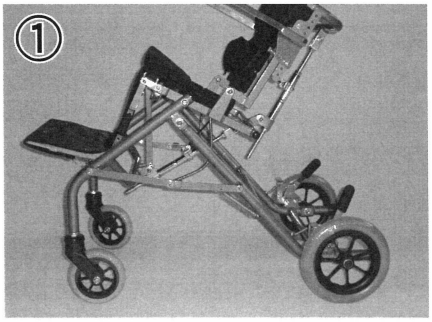
新方式リクライニング及び背もたれリクライニングを適切な角度に調節してご使用ください。

① 必ずお読みください

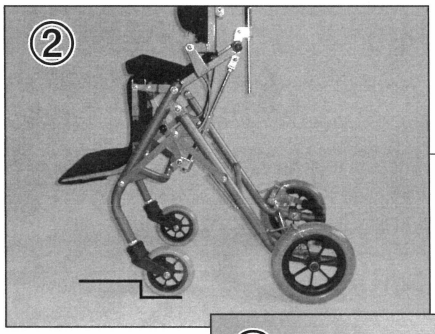
新リク＆背リク取り扱いに関する禁止事項

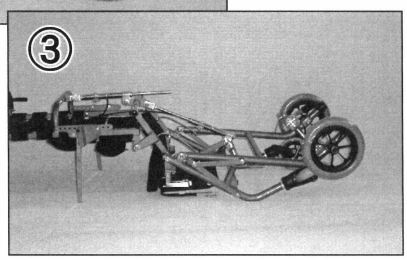
座面後部フレームを水平よりも起こした状態での使用は絶対にお止めください。

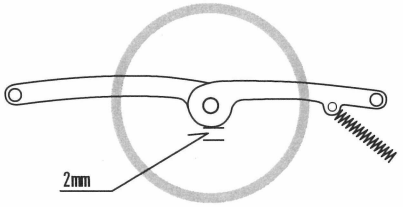




新リク＆背リクの足回りフレームは、走行中に折りたたまないよう、連結バーによってロックされています。



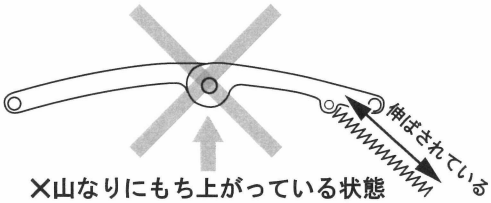




○下がりきりから2㎜ほどの遊びがある状態

（写真①）

折たたみの際はリクライニング（新リク）を起こし、座フレームと連動したバネで連結バーの中央を引っ張り上げることによってロックを解除します。



×山なりにもち上がっている状態

このロックは、座面後部フレームを地面と水平よりやや起こしたあたりから解除の状態になり始めます。

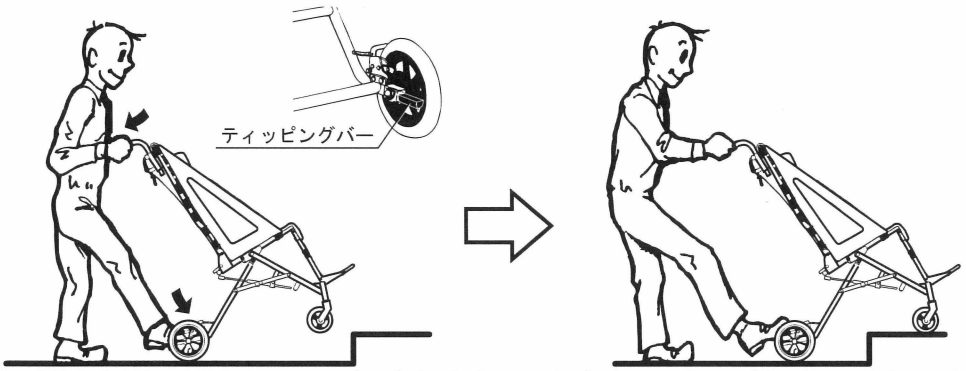
この状態のまま走行すると足回りが折りたたまれて前方に転倒する恐れがあり大変危険です。（写真②③）

お手入れ・メンテナンス

- ●可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分の汚れをきれいに取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
- ●シートを洗うときは、マッジックテープを内側になるように二つ折りにした状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を痛めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ●インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- ●泥や汚れを落とすときは、強く絞ったタオルなどで拭いてください。
- ●フレームは直接水をかけて洗わないでください。各部に錆が発生して故障や事故につながる恐れがあります。フレーム塗装部分をたわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
- ●調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ●保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

ティピング(前輪上げ)操作の方法

●段差を乗り越える方法について



歩道の縁石などの段差を乗り越える場合は、ティッピングバーを踏み込みながら押し手グリップを手前に引き寄せ、まず前輪キャスターを段差に乗せ、次に後輪を浮かせ乗り越えてください。絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください。

ティッピングバー以外のフレームは踏まないでください。フレームに負担がかかり破損の原因になります。

(詳しくは、別紙「ティッピング(前輪上げ)操作説明書」をごらんください)

押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

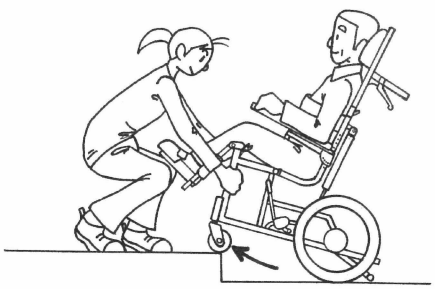


急な登り坂



急な下り坂

急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登るときは前向きで、下るときは後ろ向きで押してください。とくに、下るときに前向きだと前方へ転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあります。





ティッピング操作による段差越えが難しい場合は車体前方を直接持ち上げてください。

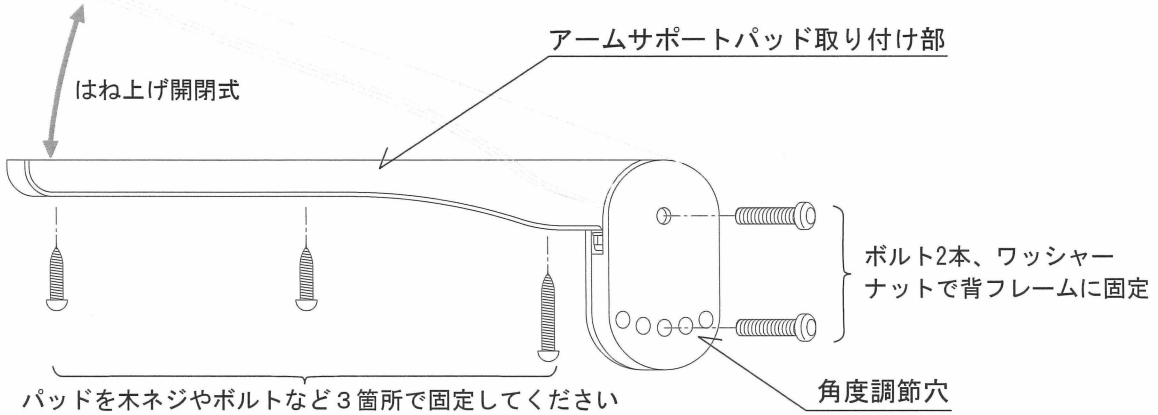
◎ リクライニング車などは、後輪が後方に位置しているので、押し手グリップとティッピングバーの操作での段差越えが困難な場合があります。正しいティッピング操作でも無理におこなうと車いすが破損する原因になります。
そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

※ティッピングバーを利用せずに押し手グリップだけの操作で無理に前輪を上げようとすると、車いすが破損するおそれがあります。
必ず押し手グリップとティッピングバーの両方を利用してください。

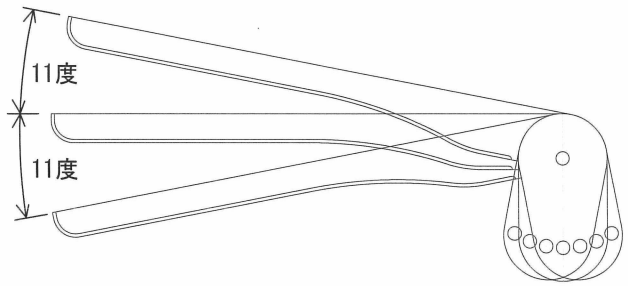
押し手グリップだけの前輪上げは禁止

アームサポート金具の取り扱い（オプション）

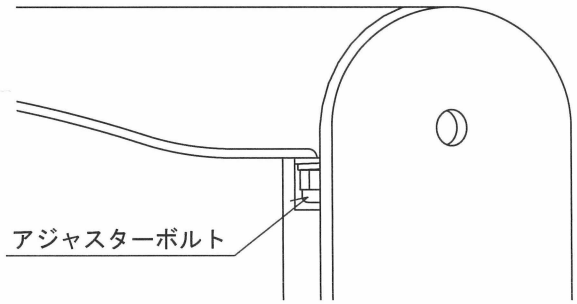
当社製の車いすや座位保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階づつ11度刻みで角度が変更できます。

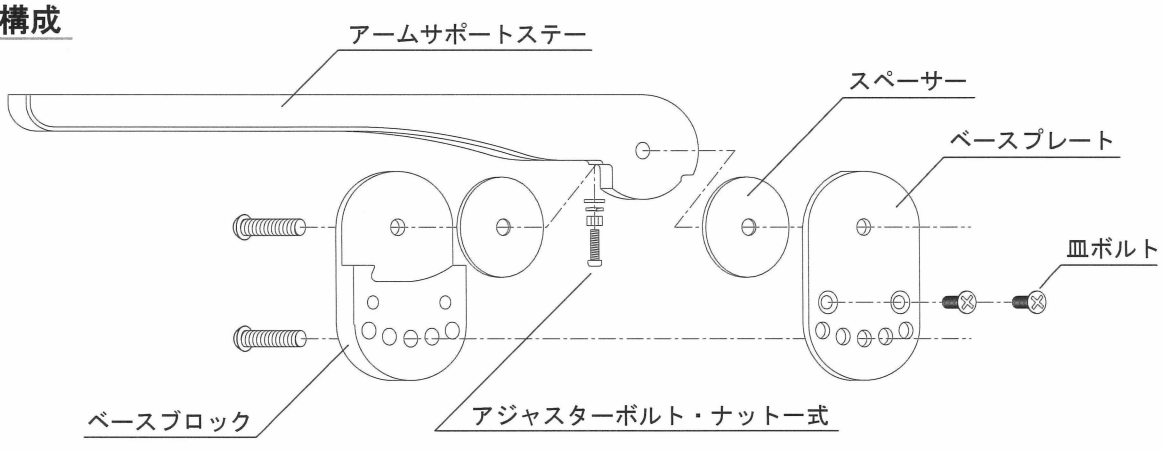


アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。
※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



・必ずアームサポートパッド（肘あて）を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

部品構成



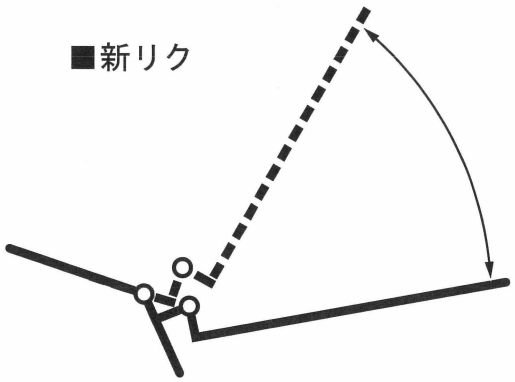
仕 様

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
座幅	mm	325	350	375
背幅	mm	360	385	410
背高さ （A）	mm	640	710	770
座奥行き（B）	mm	190～220	240～285	290～350
足台高さ（C）	mm	185～245	210～300	245～350
車体寸法(W×D×H)	mm	496×735×1130	521×800×1130	546×890×1200
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	496×810×360	521×820×420	546×860×420
基本重量	kg	約13	約13.5	約14
支点高（F）	mm	462	462	480
前座高（E）	mm	507	517	544
前座角（G）	度	20°	20°	20°
新リク角度(範囲)	度	30°	30°	30°
背リク角度(範囲)	度	26°	27°	22°
エレベーティング角度	度	90°．115°．140°．170°		
足台角度	度	104°．127°．147°．170°		
調節スリングシート		ナイロン100%		
シートユニット		ポリエステル100%		
対象年齢(身長)	cm	約90～110	約100～130	約120～140

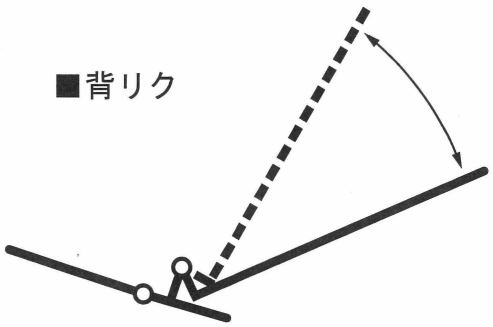
※車体寸法、折りたたみ寸法(W×D×H)は、下図の角度設定時の寸法です
※基本重量＝基本のシートユニットを取り付けた場合の重量
※前座高はフレーム寸法です

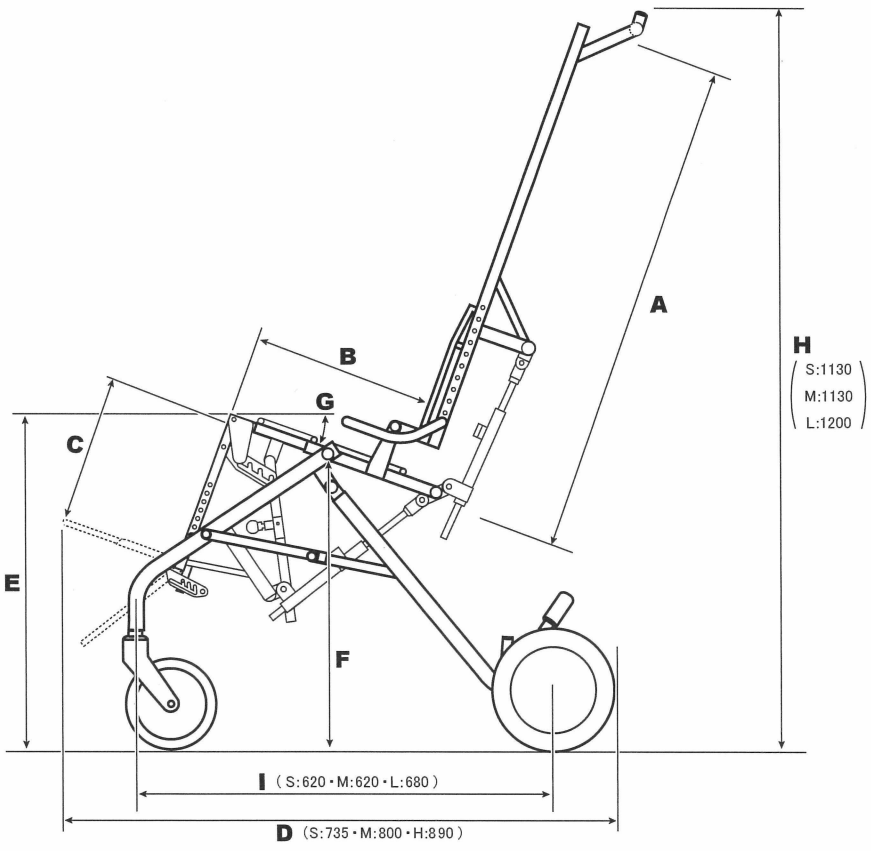
可変角度

■新リク



■背リク





取り扱い業者・連絡先

2017.6.14

製造・発売元　(株)　きさく工房　福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092) 932-7600